

第1四半期アス合材製造数量

日合協
3.9%減の709万ト

減少に歯止め掛からず

日本アスファルト合材協会（今泉保彦会長）が会員企業を対象にまとめた2024年度第1四半期（4―6月累計）のアスファルト合材製造数量は、前年同期比3・9%減の709万7210トとなり、過去最低だった前年同期実績（7338万5000ト）をき

らに下回った。単月を見ても4―6月は全てマイナスで、さかのぼると23年8月以降、11カ月連続の前年割れとなっており、製造数量の減少傾向に全く歯止めが掛からない状況が続いている。

このほかの8ブロックは全てマイナスで、特に中部と九州は4期連続、北海道と東北は3期連続の前年同期割れという厳しい状況に置かれている。

単位：ト

	製造数量	前年同期比
新規	1,800,543	△2.0
再生	5,296,667	△4.5
合計	7,097,210	△3.9

単位：ト

24年度第1四半期の製造数量の内訳は、主に高規格の道路に使われる新規合材が2・0%減の180万0543ト、一般道の新設や補修などに多用される再生合材が4・5%減の529万6667トと両方とも減少し、特に再生合材のマイナスが目立った。ブロック別では、能登半島

工場の稼働率の全国平均は、前年同期より1・5%低下して27・3%となった。ブロック別で全国平均を超えたのは、関東（36・4%）、北陸（29・7%）、中部（28・9%）の3地区。北海道（19・5%）と沖縄（14・2%）は、10%台にとどまっている。

また、足元ではストレートアスファルトの価格が再び上昇傾向にあるが、アスファルト合材の価格は横ばいで推移している。合材の需要が低迷している中、供給側は価格転嫁の交渉がしづらい状況にある。厳しい事業環境が続くが、まずは物量、舗装工事の量の確保が第一と言えそうだ。

地震の復旧工事などがある北陸が唯一のプラスで、近畿は何とか横ばいをキープした。

減少の一途をたどる状況について、日合協の担当者は「国土強靱化などの施策が推進されているが、トンネルや橋梁などに優先的に予算が充

てられ、表層部分である舗装まで回ってきていないのではないかとみている。全体の予算自体が大きく変わらない中での資材価格上昇で、実質的な工事量が減っているとの見方もある。

日合協が6月末までに実施した団体会員アンケートによ

ると、21協会は合材製造数量の確保に向けた活動を実施し、24協会は実施していなかった。実施協会の主な活動内容は、舗装工事の財源確保に関する官公庁への陳情や発注者との意見交換など。ただ、要望を行っても、需要の増加にはなかなかつながらないのが現状という。

